

グループホーム白楽荘 みくにの里(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 7 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	1871700132
法人名	社会福祉法人 白女林
事業所名	グループホーム白楽荘 みくにの里
所在地	坂井市三国町梶49-18 (電話) 0776-82-2243

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】 (20 年 5 月 15 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 11 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	9 人、非常勤 5 人、常勤換算 11.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,610 円	その他の経費(月額)	12,660+実費 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		930	円

(4)利用者の概要 (5 月 15 日 現在)

利用者数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4	要介護2		7	
要介護3	4	要介護4		3	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 85.7 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白楽荘診療所・あわら病院・市立三国病院・宮崎病院・阿部歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームは北陸三大祭りの一つ、「三国祭り」で有名な坂井市三国町にあり、少し北へ向かうと風光明媚な日本海が臨める周囲を林野に囲まれた場所に位置している。敷地内には、同法人が運営する介護老人福祉施設やデイサービスセンターの他、施設入居者のための診療所が併設しており、地域の高齢者介護の総合的な拠点となっている。ホームの建物はやわらかな茶色を基調とした鉄骨2階建てであり、門扉を入ると入居者と職員で大切に育てている季節の花や野菜が庭で栽培されており、一般の住宅と変わらない家庭的な雰囲気が感じられる。また、屋内は明るく清潔であり、玄関を入ると「地域の中で 共に生き 仲良く暮らそう」というホームの理念が目につく所に掲示されている。サービス面の特徴としては、法人内の診療所により、ホーム入居者の身体状態の変化にも適切な医療が受けられる仕組みとなっており、また、入居者の介護計画の策定については、センター方式を採用することで、過去の生活歴等一人ひとりの情報をより多く収集して、入居者本位のきめ細やかなものとしている。気晴らしの支援、外出支援等にも力を入れており、地域との交流につなげている。さらに、重度化や終末期の対応においても家族、職員、診療所医師等関係者が一丸となって支援する取り組みがなされている。</p>

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題であった入居者の外出支援については、ホーム専用車の導入により、行き先や外出の回数が増え、入居者個々の希望に応じたきめ細かな支援がなされている。また、リビング等の共有空間には入居者の作品等が飾りつけられており、より居心地の良い空間となっている。しかしながら、運営推進会議への幅広い地域関係者の参画や市行政との連携については、今後も継続した働きかけが求められる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義は十分に理解されているが、今回の自己評価に当たっては、法人内での人事異動等の事情もあり、管理者と計画作成担当者で作成するとどまり、事業所全体での取り組みには至っていない。自己評価に職員全員で取り組むことは膨大な労力と時間を要するが、サービスの現状等を振り返り、見直しや気づきを得る良い機会でもあるため、評価を実りあるものとするためにも計画的な取り組みを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は自治会長、民生委員、家族代表、市議会議員等有識者のほか、法人施設関係者が多数出席している。会議の内容は、事業所運営や行事に関する報告が中心となっているため、外部評価結果等も大いに活用し、モニタリングする機会にするなどの取り組みも期待したい。また、市担当者や老人会、婦人会等地域の身近な関係者の参画を働きかけることも期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>面会等の機会に聞かれる家族からの意見には、どの職員であっても真摯に受け止められるように傾聴する姿勢が見られる。また、家族と職員の意見交換を兼ねてレクリエーションを家族会で行っている。さらに、家族会の代表には運営推進会議のメンバーとして参画してもらい、出された意見等に関してはホームだけの問題にとどめることなく、法人全体の問題として解決を図っている。その他、苦情相談窓口や「心の音入れ」(意見箱)等も設置して、より開かれたホームを目指している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>立地的に不利な条件にありながらも、地域の行事に参加したり、時にはホーム側が地域の方々を招いておやつ作りを一緒に行うなど地域とのつながりを意図した取り組みがなされている。また、災害対策の面でも地区の消防団の支援を受けながら防災訓練を実施している。「気軽に立ち寄りてもらえるホーム」の実現に向けて、運営推進会議をより活用し、一方で入居者家族からの支援を得ながら、共によりよいホームづくりに取り組まれることを期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な生活の中での一人ひとりを大切にケア」、「その人らしい喜びと生きがいのある暮らしづくり」、「やさしくそっと手をさしのべるケア」を目指すという法人の理念のほか、「地域の中で生き生き暮らす」といったホーム独自の理念を作成し、玄関等の見やすいところに掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝のミーティング時に職員全員が唱和して確認している。また、理念に基づいて、入居者主体のサービスの提供に努めていることが、ヒアリングから確認できた。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との交流という点では立地的に不利な条件の中、地域の行事に参加したり、逆にホームに地域の方を招いておやつ作りを実施したり、福祉協力の児童を受け入れるなど、地域とのつながりをもつために努力している。さらに、今後は公民館行事への参加や住民等が気軽にホームに立ち寄ってもらえるような環境づくりへの意欲もみられる。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は十分理解されているが、今回の自己評価に当たっては、法人内での人事異動等の事情もあり、管理者と計画作成担当者で作成するにとどまり、事業所全体での取り組みには至っていない。		自己評価に職員全員で取り組むことは膨大な労力と時間を要するが、サービスの現状等を振り返り、見直しや気づきを得る良い機会でもあるため、評価を実りあるものとするためにも計画的な取り組みを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長、民生委員、家族代表、市議会議員等有識者のほか、法人施設関係者が多数出席している。会議の内容は、事業所運営や行事に関する報告が中心となっている。		運営推進会議は外部の人の目を通してホームの取り組みや改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。よって、市担当者や老人会、婦人会等地域の身近な関係者の参画を働きかけるとともに外部評価結果等も大いに活用し、モニタリングする機会にするなどの取り組みも期待したい。
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市担当との日常的な関わりはない。また、運営推進会議への参加を依頼しているが実現には至っていない。		ホームや入居者、家族が抱える課題を解決する上で行政の理解や支援を必要とする場面は少なくないため、まず行政担当者にホームの実情等をよく知ってもらうとともに、課題解決に向けて少しずつ協働関係を築いていくことを期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求の際に、個別の状況報告と「みくにの里だより」を同封している。また、面会時には入居者ごとの個人アルバムを見てもらったり、金銭の出納状況についても説明して、了解を得ている。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員の意見交換を兼ねてレクリエーションを家族会で行っている。また、家族会の代表は運営推進会議のメンバーとして参画している。その他、苦情相談窓口や「心の音入れ」（意見箱）等も設置して、より開かれたホームを目指している。		
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内異動や退職の際には、引継ぎを十分に行うとともに入居者に対しても顔つなぎや説明をして、影響を未然に防ぎ、馴染みの関係が継続されるよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は計画的に行われ、時には外部からの講師を招くなど充実した研修体制となっている。また、ホーム内では法人内研修に基づいた勉強会を行うなど職員のスキルアップに反映させている。外部研修にも順次職員を参加させる予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会が主催する会議等に管理者が参加して、他事業所との情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者のリロケーションダメージを最小限にとどめるため、職員による自宅訪問や本人、家族によるホーム見学を行い、スムーズな入居に移行できるように支援している。また、帰宅願望の強い入居者には家族の協力を得ながら、外出の回数を増やして徐々にホームの生活に馴染む支援がなされている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の過去の生活歴、嗜好等からホームにおける日常生活上の役割分担がなされており、入居者はできることに取り組みながらごく自然に、日々の安らいだ生活を送っている様子が見受けられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートから入居者一人ひとりの情報を得たり、入居後の生活の中での表情や会話等から本人の希望や意向の把握に努めている。月1回の「一日要望を聞きますデー」を設けて、入居者の希望に応じた外出支援等を行っている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式による入居者の生活歴、職歴の把握のほか、家族から本人のできること・できないこと等の情報を踏まえて、個性の高い介護計画を作成している。また、毎週カンファレンスを行い、職員の気づきを支援に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに計画を見直すほか、入居者の状態変化があった場合には、必要に応じて診療所医師、理学療法士、看護師等の意見を聞き、適宜計画を変更している。また、必ず年1回家族と面談し、本人の要望等の把握に努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の入院時には早期退院のために、居室等の環境整備や職員体制の充実に努めている。また、法人内施設・事業所との交流や医療面・栄養指導面でも連携が図られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は併設診療所にて月2回定期受診をしている。また、かかりつけ医での受診の際は、家族と相談しながら付き添い等の希望に応じた対応がなされ、結果については診療所医師・家族・職員による共有がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に関しては入居の際、本人や家族の意向を十分に確認している。また、その対応については、法人内施設や診療所、関係医療機関が繰り返し話し合いを持ち、チームで一貫したケアに取り組む方針である。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誘導や役割への働きかけは強制することなく見守りに徹しており、会話からも入居者への敬いのある言葉かけや、ゆっくり聞く姿勢等一人ひとりに配慮した関わりが見られた。事務所内も整理整頓され、個人記録等は所定の位置に整理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムは保ちながらも、入居者一人ひとりの状態等に応じて見守りを基本とした支援がなされている。月1回の「一日要望を聞きますデー」を設けて、入居者の希望に応じた外出支援等を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は、準備から片付けまで入居者と職員が役割分担して、一緒に行っている。また、食事も入居者と職員が同じテーブルで、会話をしながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的にユニットごとに週3回の入浴日を設定しているが、各ユニットが交互に入浴日を設定しているため、希望により毎日の入浴も可能である。また、一般浴が困難な入居者には法人内のデイサービスのチェアー浴もできるようになっている。		入浴時間は日中のみとなっているが、入居者の希望に応じて、夜間入浴の実施等に向けた取り組みも今後期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、洗濯や掃除、調理、畑作り等入居者間で自然と決められた役割を一人ひとり担って、楽しみや気晴らしごととなっている。また、職員が把握した入居者のできること、得意なこと等を踏まえて、活動の幅ややりがい広がるようさげない声かけで支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前回の外部評価以降導入したホーム専用車で手づくり弁当持参のドライブに出かけたり、地域の方々とふれあう散歩をはじめ、月1回、入居者と職員がマンツーマンで本人の希望に応じた外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関は開放しているが、敷地内の門扉は基本的に施錠されているため、現在、ホームとしても安全面に配慮しながら施錠しない方策を模索している。		入居者にとってより家庭的で、地域の人々が気軽に立ち寄れるホームを目指した取り組みの一貫として、門扉も施錠しない工夫を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は2か月ごとに行っており、夜間の法人内の支援体制も整っている。また、訓練時には法人内施設・事業所や地区の消防団等の支援を受けている。災害訓練用のマニュアル、連絡網も整備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内施設の栄養士が作成しており、具材加工、盛り付け量は入居者個々の状態に応じて変えているが、食事、水分の摂取量に関する記録が見られない。		入居者の身体状態等を適切に把握する上では、日ごろからの食事や水分摂取量の管理は重要であり、今後、一人ひとりの記録の充実が望まれる。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には理念と職員の写真入りの名前が掲示され、また、明るく心地よい日差しが差し込むリビングにはテーブルやソファが置かれている。壁には思い出の写真や作品が飾られ、家庭的な雰囲気の中、ゆとりある居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	綺麗に整理された居室内には、自宅から持ち込んだ馴染みのベッドや筆筒が置かれている。また、居室によっては壁面を利用して写真や作品が飾られているなど、思い思いの演出がなされている。自室のドアには、自宅のある町名と表札が掲げられ、自分の部屋との認識を保つ工夫もなされている。		

グループホーム白楽荘 みくにの里(Aユニット)

自己評価票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成し、ホーム内に掲示している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目が届く位置に掲示し、毎朝申し送り、ミーティング時に唱和している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪時見て頂けるように玄関やフロアーに掲示している		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	山間部な為頻繁な交流は無いが、散歩時の機会に挨拶や交流を図っている		地域の方にホームを交流の場として提供し、色々な催しを企画することで今後交流を深めていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の祭礼や老人会の方達との交流を図っているが頻繁ではない		公民館行事の参加を行っていきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の老人会を招き交流を行いお菓子作りを一緒に行なう等し、介護予防に取り組んでいる		交流会の回数を増やしていきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を率直に受け止め、職員同士で話し合い可能なことから実施している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方に参加して頂きサービス内容の評価等の意見を徴収し、法人内会議で評価・改善に活かしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市役所に入所状況報告を行い、情報提供の場を設けている。また随時相談等の対応をお願いしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会参加を実施しているが、現状対象となる方がいないこともあり、支援にまではいたっていない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	接遇委員会や法人内の研修の機会に啓発に努めている		職員一人一人に周知徹底するよう努める
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に説明を行っている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書やホーム内に「苦情相談解決のしくみ」を掲示し、それに基づき実施している法人内でも苦情相談委員会を設け運営している。グループホーム会議でも随時意見等の聞き取りを行っている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月写真付のホーム便りを作成し、家族に送付したり請求書送付時に個々の近況を書いた手紙を同封している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会などの機会に聞き取りを行っている。利用者意見の反映と同じく「苦情相談解決のしくみ」に基づき実施している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議時や職員の意見箱「心の音入れ」を設置し、意見や提案を聞く機会を設け反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態変化や行事等による勤務調整は随時行っている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限に留めているが、異動や退職時には利用者への配慮を心がけている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に基づき、毎月勉強会を実施している。外部研修も随時参加をすすめている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議、研修等に参加して交流を図っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での親睦会、旅行等に参加し、ストレス解消に取り組んでいる		職員が利用者の方から離れる時間と空間作りに取り組んでいきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修の参加や資格所得を奨励している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族と面談し、不安な事、要望などを事前に聞いたり、居宅ケアマネジャーから情報収集している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずご家族には見学に来ていただき、その時に困っている事、不安な事、要望などを聞いている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内入所判定会に参加し、同時に申し込み経緯や状況等検討している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に今まで使用していた馴染みのものや家具等を持ってきてもらったり、ご家族と連絡を取り合いながら本人がなじんでいけるよう工夫している		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は業務に集中する事なく、利用者とともに作業を行いながら日常生活の知恵や料理等の助言を受けたりしている		利用者の得意なことを発揮できるようにしていきたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時随時本人の近況報告や家族の要望等を聞く機会を設けながら家族と共に本人を支えていく関係を築いている		ご家族を交えて外出や演芸活動をしていきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式のシート記入をお願いする等し、本人と家族の関係の理解に努め、負担感を感じない程度に連絡調整を行っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲で家族に面会や外出、外泊の要請や行事等の参加をお願いしている。また併設施設やサービスに友人を訪ねたり、自宅訪問をしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を把握しながら職員が会話の仲介などを行っている。また極力孤立しないよう、仲間意識が持てるよう食事の場所や配置などを工夫している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設施設に入所された方や入院先への面会等も随時行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規入居者からセンター方式シートなどを利用し継続的に本人の様子を伺ったり、生活状況の確認をしている。また職員同士でカンファレンスで意見交換している		計画作成担当者を中心にセンター方式をより効果的に活用していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書、センター方式シート等を活用し把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や個人ケース記録、ケアプラン実施記録をパソコン入力することにより、日勤帯、夜勤帯を通して日々の情報を共有する仕組みを作っている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案時には継続的に本人の状況について職員、家族間で話し合い、必要に応じて本人も含め担当者会議を開いたり、併設施設のDr、看護師、PT、栄養士から助言を受けたりしている		全員が周知できるようにモニタリングやカンファレンス等の充実を図りたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時あるいは状況変化時には指定アセスメント様式に沿ったアセスメントを行い、必要に応じて併設施設のDr.看護師、PT、栄養士から助言を受けながら見直しを行っている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースの記録やケアプラン実施チェックをパソコン入力する事により、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所との各種行事参加交流(夏祭り、敬老会、ボランティア行事)や医療、リハビリ、栄養指導等の支援を調整している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	陶芸、民謡等の趣味、ボランティア、地区消防団、福祉協力校の慰問、日赤奉仕団の協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設デイサービス等馴染みの関係が途絶えないよう随時交流を行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状該当者がいない事もあり協働は実施できていない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所にて原則月2回の居宅療養管理指導を受け、必要に応じて個別に家族及び職員付き添いにてかかりつけ医受診を行っている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個別に認知症専門医やその他専門医との情報交換を行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設診療所の看護師に随時支援を受けている。また夜間は看護師のオンコール体制にて支援を受けている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時面会などに情報交換、カンファレンス等を実施し連携を行っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期は必要に応じて併設特養や関連医療機関での対応を家族や、併設診療所Dr、看護師と繰り返し話し合い入所判定会等の機会に協議し対応している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>所定のアセスメント様式を用いてカンファレンスをしながらアセスメントし併設診療所Drとムンテラを実施し、看護師の支援を得ながらチームとして取り組んでいる</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の情報について関係者と話し合い情報交換を行っている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内の個人情報保護規定や接遇委員会に徹底を図っている。また個々に「接遇チェック表」にて実施状況の啓発チェックを行っている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>命令口調や複雑な会話は避け、傾聴による自己決定権の尊重に心がけている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度日課に沿った生活支援を行っているが、強制することなく一人一人のペースを尊重している。希望に応じて外出等の支援も臨機応変に行っている</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に理容ボランティアの支援や家族及び職員同伴にて馴染みの理、美容店の利用を行っている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>随時食事の好みを聞き取り、また残菜等を等もとに調理の工夫を行ったり、利用者と職員と一緒に準備や片づけを行い、時には手作り弁当持参で外出したりしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙に関しては現状希望される方がいない為行っていない。各人嗜好品については、外出時や家族面会時に必要範囲内で楽しんでいる</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、サインや排泄パターンを把握する事で、本人に合った声掛け、介助方法を検討している。またプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則指定日に午前から午後にかけてゆっくり入浴していただいている。一人一人に入浴順の希望やタイミングを確認しながら対応している。汗をかいた等要望に応じシャワー浴も行っている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握した上で日中の活動を促し、夜間は落ち着いた環境を提供し、安眠できるよう心掛けている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助や掃除、洗濯等生活関連行為を出来る事から各人実施していただいている。前庭での畑作、花の栽培なども実施している		併設のデイサービスと共同で新たに畑を作り、デイサービスとの交流を図りながら、畑作を行えるよう支援していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人必要最低限のお小遣いは所持しており、管理は事務所でやっている。可能な方については自分でして頂いているが、買物の際には必要な相談、援助などを行っている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	専用車輛を購入し随時外出援助を行っている。また近隣の散歩等も随時行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画や地域行事、季節行事を確認しながら行っている。家族の負担を考慮して、現地での待ち合わせ等工夫している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状、手紙等本人が自ら行い、必要に応じて支援を実施している、電話も特に制限せず行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に制限せず気軽に立ち寄っていただけるよう心掛けている。面会簿を設置し、家族間の面会状態も確認、提供できるようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルのもと、身体拘束をしないよう取り組む事で現在身体拘束は行っていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はフリーだが外玄関は暗証番号付きロックで施錠している		センサーを設置し安全を確保した上で時間を決めて開放していきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	点呼表を作成し定時利用者の所在や様子を把握に活用している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	原則保管場所を決めて管理をしているが、使用時には必要個数の確認や元に戻したかの確認を行っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアカンファレンスやヒヤリハット、アクシデント報告、事故後の検証により対応を協議している。法人内「介護事故防止委員会」にて検証もっており、定期的に研修の機会を設けている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の事故対応マニュアル、事業所内の急変時対応マニュアルに即して対応している。また研修会などで確認を随時行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	原則2ヶ月ごとに防火訓練を実施している。また併設施設や地区消防団の支援を受けながら、夜間想定防火訓練も行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用契約時や家族を交えた担当者会議時にリスクに関する説明を行っている。また特に利用開始当初や状態変化時には予測されるリスクの説明や対応について家族に報告、相談を行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタル測定、様子観察を行い一人一人の体調変化の早期対応に努めている。状態変化時には併設診療所に連絡を行い、指示や処置を受けている。必要に応じて専門医に情報提供も受けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル及び服用薬品名カードにて必要な情報の確認や症状の変化に対応している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成しそれを基に日々の食材の工夫、水分量の調整を行っている。また運動機会の確保や必要最低限で緩下剤の使用もやっている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要に応じて歯科受診、往診を受け指導を活かしている。又声掛け介助の必要な方には直接的に援助している。義歯等は就寝前の洗浄を毎日行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時個別に嗜好の聞き取りや摂取量、体重変化の確認を行い、カンファレンスや申し送りに対応している。メニューについては併設施設の栄養士作成の献立をもとに、昼食は一人一人の状態や好みに応じ変えている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを設置しそれにそって実施している。また法人内の感染対策委員会に参加し対応を検討している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを設置し、それにそって実施している。また調理用具等の衛生は、チェック表を作成し必ず実施するようにしている。普段からうがい、手洗いは徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	郵便受けに各人の名前を表示したり、玄関部に看板を取り付けてわかりやすくする。前庭に季節の花、野菜を植え、利用者や家族、近隣の人等も楽しんでもらえるようにしている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した作品や季節の花を置き生活感や季節感の演出をしている。極端な音や光の利用は普段から避けるようにしている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーやソファ、廊下や前庭にベンチを置き、個々の居場所を確保したり、気の合った利用者が過ごせるよう工夫している		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限せず馴染みの家具等を持ち込み使用して頂いている。またいつでも出せる所に用意してその都度使用している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は窓の閉会と換気扇使用を状況に応じて行っている。冷暖房は温度設定をこまめに変えたり、定時で確認の機会を設けて行っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外ともバリアフリーで居室もゆとりを持った作りとなっている。主要部には休める場所や手摺を取り付け安全に配慮している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく明示したり、居室は一人一人の住所と名前を入口に付けて理解していただくようにしている。また夜間状況にあわせてトイレの電気をつけておいたり、戸を開けておく等し分かりやすくしている		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周リのアスファルトを緑化し花壇や菜園を作り、利用者が楽しんだり活動できるようにしている。また外周リで洗濯物を干したりもしている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

長年親しんだ行事への参加(吉崎参り、三国祭りなど)、季節感が感じられるような場所、また馴染みの場所へ出かけている。食事の献立の中に旬の物を取り入れ、季節感を出す。畑や花壇作りに力を入れている。

グループホーム白楽荘 みくにの里(Bユニット)

自己評価票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成し、ホーム内に掲示している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目が届く位置に掲示し、毎朝申し送り、ミーティング時に唱和している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪時見て頂けるように玄関やフロアーに掲示している		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	山間部な為頻繁な交流は無いが、散歩時の機会に挨拶や交流を図っている		地域の方にホームを交流の場として提供し、色々な催しを企画することで今後交流を深めていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の祭礼や老人会の方達との交流を図っているが頻繁ではない		公民館行事の参加を行っていきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の老人会を招き交流を行いお菓子作りを一緒に行なう等し、介護予防に取り組んでいる		交流会の回数を増やしていきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を率直に受け止め、職員同士で話し合い可能なことから実施している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方に参加して頂きサービス内容の評価等の意見を徴収し、法人内会議で評価・改善に活かしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市役所に入所状況報告を行い、情報提供の場を設けている。また随時相談等の対応をお願いしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会参加を実施しているが、現状対象となる方がいないこともあり、支援にまではいたっていない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	接遇委員会や法人内の研修の機会に啓発に努めている		職員一人一人に周知徹底するよう努める
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に説明を行っている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書やホーム内に「苦情相談解決のしくみ」を掲示し、それに基づき実施している法人内でも苦情相談委員会を設け運営している。グループホーム会議でも随時意見等の聞き取りを行っている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月写真付のホーム便りを作成し、家族に送付したり請求書送付時に個々の近況を書いた手紙を同封している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会などの機会に聞き取りを行っている。利用者意見の反映と同じく「苦情相談解決のしくみ」に基づき実施している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議時や職員の意見箱「心の音入れ」を設置し、意見や提案を聞く機会を設け反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態変化や行事等による勤務調整は随時行っている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限に留めているが、異動や退職時には利用者への配慮を心がけている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に基づき、毎月勉強会を実施している。外部研修も随時参加をすすめている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議、研修等に参加して交流を図っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での親睦会、旅行等に参加し、ストレス解消に取り組んでいる		職員が利用者の方から離れる時間と空間作りに取り組んでいきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修の参加や資格所得を奨励している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族と面談し、不安な事、要望などを事前に聞いたり、居宅ケアマネージャーから情報収集している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずご家族には見学に来ていただき、その時に困っている事、不安な事、要望などを聞いている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内入所判定会に参加し、同時に申し込み経緯や状況等検討している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に今まで使用していた馴染みのものや家具等を持ってきてもらったり、ご家族と連絡を取り合いながら本人がなじんでいけるよう工夫している		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は業務に集中する事なく、利用者とともに作業を行いながら日常生活の知恵や料理等の助言を受けたりしている		利用者の得意なことを発揮できるようにしていきたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時随時本人の近況報告や家族の要望等を聞く機会を設けながら家族と共に本人を支えていく関係を築いている		ご家族を交えて外出や演芸活動をしていきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式のシート記入をお願いする等し、本人と家族の関係の理解に努め、負担感を感じない程度に連絡調整を行っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲で家族に面会や外出、外泊の要請や行事等の参加をお願いしている。また併設施設やサービスに友人を訪ねたり、自宅訪問をしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を把握しながら職員が会話の仲介などを行っている。また極力孤立しないよう、仲間意識が持てるよう食事の場所や配置などを工夫している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設施設に入所された方や入院先への面会等も随時行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規入居者からセンター方式シートなどを利用し継続的に本人の様子を伺ったり、生活状況の確認をしている。また職員同士でカンファレンスで意見交換している		計画作成担当者を中心にセンター方式をより効果的に活用していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書、センター方式シート等を活用し把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や個人ケース記録、ケアプラン実施記録をパソコン入力することにより、日勤帯、夜勤帯を通して日々の情報を共有する仕組みを作っている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案時には継続的に本人の状況について職員、家族間で話し合い、必要に応じて本人も含め担当者会議を開いたり、併設施設のDr、看護師、PT、栄養士から助言を受けたりしている		全員が周知できるようにモニタリングやカンファレンス等の充実を図りたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時あるいは状況変化時には指定アセスメント様式に沿ったアセスメントを行い、必要に応じて併設施設のDr.看護師、PT、栄養士から助言を受けながら見直しを行っている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースの記録やケアプラン実施チェックをパソコン入力する事により、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所との各種行事参加交流(夏祭り、敬老会、ボランティア行事)や医療、リハビリ、栄養指導等の支援を調整している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	陶芸、民謡等の趣味、ボランティア、地区消防団、福祉協力校の慰問、日赤奉仕団の協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設デイサービス等馴染みの関係が途絶えないよう随時交流を行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状該当者がいない事もあり協働は実施できていない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所にて原則月2回の居宅療養管理指導を受け、必要に応じて個別に家族及び職員付き添いにてかかりつけ医受診を行っている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個別に認知症専門医やその他専門医との情報交換を行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設診療所の看護師に随時支援を受けている。また夜間は看護師のオンコール体制にて支援を受けている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時面会などに情報交換、カンファレンス等を実施し連携を行っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期は必要に応じて併設特養や関連医療機関での対応を家族や、併設診療所Dr、看護師と繰り返し話し合い入所判定会等の機会に協議し対応している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>所定のアセスメント様式を用いてカンファレンスをしながらアセスメントし併設診療所Drとムンテラを実施し、看護師の支援を得ながらチームとして取り組んでいる</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の情報について関係者と話し合い情報交換を行っている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内の個人情報保護規定や接遇委員会に徹底を図っている。また個々に「接遇チェック表」にて実施状況の啓発チェックを行っている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>命令口調や複雑な会話は避け、傾聴による自己決定権の尊重に心がけている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度日課に沿った生活支援を行っているが、強制することなく一人一人のペースを尊重している。希望に応じて外出等の支援も臨機応変に行っている</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に理容ボランティアの支援や家族及び職員同伴にて馴染みの理、美容店の利用を行っている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>随時食事の好みを聞き取り、また残菜等を等もとに調理の工夫を行ったり、利用者と職員と一緒に準備や片づけを行い、時には手作り弁当持参で外出したりしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙に関しては現状希望される方がいない為行っていない。各人嗜好品については、外出時や家族面会時に必要範囲内で楽しんでいる</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、サインや排泄パターンを把握する事で、本人に合った声掛け、介助方法を検討している。またプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則指定日に午前から午後にかけてゆっくり入浴していただいている。一人一人に入浴順の希望やタイミングを確認しながら対応している。汗をかいた等要望に応じシャワー浴も行っている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握した上で日中の活動を促し、夜間は落ち着いた環境を提供し、安眠できるよう心掛けている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助や掃除、洗濯等生活関連行為を出来る事から各人実施していただいている。前庭での畑作、花の栽培なども実施している		併設のデイサービスと共同で新たに畑を作り、デイサービスとの交流を図りながら、畑作を行えるよう支援していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人必要最低限のお小遣いは所持しており、管理は事務所で行っている。可能な方については自分でして頂いているが、買物の際には必要な相談、援助などを行っている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	専用車輛を購入し随時外出援助を行っている。また近隣への散歩等も随時行っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画や地域行事、季節行事を確認しながら行っている。家族の負担を考慮して、現地での待ち合わせ等工夫している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状、手紙等本人が自ら行い、必要に応じて支援を実施している、電話も特に制限せず行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に制限せず気軽に立ち寄りいただけるよう心掛けている。面会簿を設置し、家族間の面会状態も確認、提供できるようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルのもと、身体拘束をしないよう取り組む事で現在身体拘束は行っていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はフリーだが外玄関は暗証番号付きロックで施錠している		センサーを設置し安全を確保した上で時間を決めて開放していきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	点呼表を作成し定時利用者の所在や様子を把握に活用している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	原則保管場所を決めて管理をしているが、使用時には必要個数の確認や元に戻したかの確認を行っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアカンファレンスやヒヤリハット、アクシデント報告、事故後の検証により対応を協議している。法人内「介護事故防止委員会」にて検証もっており、定期的に研修の機会を設けている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の事故対応マニュアル、事業所内の急変時対応マニュアルに即して対応している。また研修会などで確認を随時行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	原則2ヶ月ごとに防火訓練を実施している。また併設施設や地区消防団の支援を受けながら、夜間想定防火訓練も行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用契約時や家族を交えた担当者会議時にリスクに関する説明を行っている。また特に利用開始当初や状態変化時には予測されるリスクの説明や対応について家族に報告、相談を行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタル測定、様子観察を行い一人一人の体調変化の早期対応に努めている。状態変化時には併設診療所に連絡を行い、指示や処置を受けている。必要に応じて専門医に情報提供も受けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル及び服用薬品名カードにて必要な情報の確認や症状の変化に対応している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成しそれを基に日々の食材の工夫、水分量の調整を行っている。また運動機会の確保や必要最低限で緩下剤の使用も行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要に応じて歯科受診、往診を受け指導を活かしている。又声掛け介助の必要な方には直接的に援助している。義歯等は就寝前の洗浄を毎日行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時個別に嗜好の聞き取りや摂取量、体重変化の確認を行い、カンファレンスや申し送りに対応している。メニューについては併設施設の栄養士作成の献立をもとに、昼食は一人一人の状態や好みに応じ変えている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを設置しそれにそって実施している。また法人内の感染対策委員会に参加し対応を検討している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを設置し、それにそって実施している。また調理用具等の衛生は、チェック表を作成し必ず実施するようにしている。普段からうがい、手洗いは徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	郵便受けに各人の名前を表示したり、玄関部に看板を取り付けてわかりやすくする。前庭に季節の花、野菜を植え、利用者や家族、近隣の人等も楽しんでもらえるようにしている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した作品や季節の花を置き生活感や季節感の演出をしている。極端な音や光の利用は普段から避けるようにしている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーやソファ、廊下や前庭にベンチを置き、個々の居場所を確保したり、気の合った利用者が過ごせるよう工夫している		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限せず馴染みの家具等を持ち込み使用して頂いている。またいつでも出せる所に用意してその都度使用している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は窓の閉会と換気扇使用を状況に応じて行っている。冷暖房は温度設定をこまめに変えたり、定時で確認の機会を設けて行っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外ともバリアフリーで居室もゆとりを持った作りとなっている。主要部には休める場所や手摺を取り付け安全に配慮している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく明示したり、居室は一人一人の住所と名前を入口に付けて理解していただくようにしている。また夜間状況にあわせてトイレの電気をつけておいたり、戸を開けておく等し分かりやすくしている		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周リのアスファルトを緑化し花壇や菜園を作り、利用者が楽しんだり活動できるようにしている。また外周リで洗濯物を干したりもしている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

長年親しんだ行事への参加(吉崎参り、三国祭りなど)、季節感が感じられるような場所、また馴染みの場所へ出かけている。食事の献立の中に旬の物を取り入れ、季節感を出す。畑や花壇作りに力を入れている。